令和　7　年度　　園評価書

園番号　38　　園名　興津北こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かな たくましい子	重点目標 「かんじる かんがえる やってみる」	子どもが生活やあそびにおもしろさを感じ、意欲をもって取り組めるようにする	2歳児は保育者に憧れて、毎日エプロンをつけ給食を運ぶのが楽しみになっている。5歳児は当番活動として毎日の出席人数調べを自分の仕事として張り切ってやっている。4,5歳児は子どもと相談しながら活動を進めることで自分が主体になり意欲的に取り組めている姿も見られる。さらに子どもたちが夢中になっている様子をよく観察し、夢中になるようにしていきたい	B	A	重点目標の実現のために、園内の場づくり、裏山やハーブ園など、園内だけでなく園周辺の環境を活用し、子どもたちの興味を引き出したり、やりたい気持ちをふくらませたりするなど、様々な手立てをタイムリーに打っていると感じます。子どもたちのやりたい気持ちを大切にすることで、子どもたちが夢中になって遊びに取り組む姿や、友だちや保育者と笑顔でやりとりする姿が見られました 自然環境に恵まれた立地の園であるから、引き続き積極的に自然に関わらせた教育保育の実践を期待します	あそびや生活の中で「どうする？」「何が必要？」と子どもの声を聴く。子どもの『できた姿』より『夢中になっている姿』や面白さを感じる場面を丁寧に見取り、遊びが深まる環境の工夫や保育者のかかわりを工夫していく
		あそびを通して、保育者や友だちと「たのしかったね」という経験を積み重ねる	好きな遊びを見つけじっくりと遊ぶ姿がある。3歳児はハーブ園でお家ごっこ、4歳児は可動遊具を使って自分たちでサーキットをつくり、5歳児はマッサージごっこで自分たちで看板やチケットを作って遊びを進めていく姿が見られている。さらに“たのしかったね”が増えたり遊びが深まっていくためにどうしたらいいのかを意識していきたい	A	A		「たのしかったね」という経験を大事にしていく。子どもたちがやりたい遊びをサポートしていき「おもしろかったね」の日々が送れるようにしていく
		自然に触れて、よく観たり、気付いたり、感じたり、考えたりする	園のまわりのたくさんの自然に触れ、環境学習や散歩を通して、子どもたちが“なんだろう”“ふしぎだな”と感じる姿があった。保育者は子どものつぶやきをキャッチして一緒に楽しんだり考えたりした。まだ自然環境を活かしきれていない場面もある。まず保育者自身が子どもたちのようなワクワクした気持ちで自然に触れ、面白がっていけるようにしたい	A	A		豊かな自然を“日常的な環境”にし、引き続き気付きを楽しむ散歩を行い観察力や探究心を育てる。保育者は自然を写真や掲示で見える化し、子どもと一緒に「不思議だね」と面白がったり考えたりする

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	園関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における 教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標に向けて教育・保育を行う	各クラス、学年目標を意識し保育を行っている。子どもの姿やエピソードを共有しながら環境をつくったり保育者のかかわりを考えた。後半は、クラス担任間で個々の姿や育ちについての話し合いを意識して行った。	B	A	個々の育ちや家庭環境について、職員間で情報共有しながら対応するなど 指導の一貫性を大切にしていることが伝わりました 狭い園庭に遊具やあそび道具をうまく配置しています。ただ、年長の子どもたちは隙間を縫うように走っているのが少し気がかりでした 毎月の避難訓練や週に一度の避難あそびをすることで、職員と子どもたちの安全意識を高めていると思います。事故防止のために、日頃から整理整頓をしていることもリスク回避に役立っていると思います 感染症の流行時に保護者と情報を共有することは、感染拡大を防ぐための有効な手段であると思いました サポートプランや支援方法について、職員間で意見交換していることは今後も続けていってほしいです より組織的に運営していくためには、全職員の共通理解が欠かせないと考えます。職員が何でも伝え合える安心感のある職場環境を整えていってほしいです。また、良いところはすぐに実践できるようにしていってほしいです 園の説明欄や保護者のアンケートを拝見すると、A評価がもっと増えてもいいのではと思います 積極的に小学校や近隣園と交流しているだけでなく、デイサービスや自治会館など、地域との連携を大切にしていることがわかります 「地域のこども園」として地域から愛される園づくりを進めていることは素晴らしいと思います 地域住民との連携強化は園運営プラスでるばかりか、地域住民の生きがいづくりにつながっているものと思います	歳児の発達、個々の育ちを取り上げて、理解しながら保育のねらいや保育内容をクラス内で共有し教育・保育を行っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや生活リズムを大切にし、子どもが安定した気持ちで園生活が送れるようにする	一人一人の家庭環境や、生活リズムに配慮した保育を意識し、朝の受け入れを丁寧に行うようにした。昼打ちあわせ会議の中で、個々の育ちや様子、状況を職員間で共有し、子どもにかかわるようにした	A	A		子どもの対応や家庭への配慮について職員間の情報共有を行い、園全体で支援をしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	あそびが楽しくなる用具、教材、言葉がけを毎日工夫する	子ども達の興味関心に添って、各学年の遊びの拠点を作り遊びがより面白くなるように、職員間で話し合いを行った。乳児は拠点を砂場にして好きな遊びができるようにした。幼児はステージの場所を考え、コンクリート広場に製作コーナーをつくるなど再構成して更におもしろくするための関わりを工夫しているが、うまくいかないことが多い	B	A		子どもと一緒に遊びながら、どこにワクワクしているのかを考える。子どもに答えを知らせるのでなく考える視点を広げる言葉がけを行う。写真を使ったり振り返りを行い、もっと楽しくなるような再構成を子どもと一緒に行っていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	職員も子どもも自ら考え行動する訓練を重ねる	様々な想定での訓練を行い、振り返りを重ねていくことで、職員が減災意識を持ち続けることが大事だと思う。職員は声のかけ合い、子どもたちは週に一度の避難あそびを続け、自分で考え行動する力を育てていく。また事故防止のため、各クラスの整理整頓を行い安全面に気をつけていきたい	B	A		訓練の前にまず職員間で「なぜ訓練を行うのか」を共有する。様々な想定の訓練を行う。週に一度の避難あそびを必ず行い「どこが危険か」「どうしたら安全か」「どうやって逃げるか」と自ら危険を判断できる力を育てて、安全への意識を高めていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	感染症対策を含めた保健指導を行い、子どもが健康な生活を送れるようにする	手洗いうがいなど、発達に合わせ指導を行い、感染症が出た時はコドモンやボードですぐに保護者と情報を共有し、早めの休養や受診を呼びかけ対策を行った	A	A		日々の生活の中で、手洗い、うがいを習慣づける、基本的習慣や生活リズムを整える大切さを保護者に発信し、家庭と共に進めていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の特性を理解し、良いところを見つけ子どもが自己肯定感をもてるようにする	一人一人の特性を理解し、支援の必要な子に肯定的な声かけをして、小さな“できた”を積み重ねて自信につながるようにかかわっている。サポートプランや支援方法について職員間で気づきを出し合い、考え合っている。ケース会議を行い、子どもの気になる行動や良いところを伝え合い園のかかわりについて話し合いを行った	B	B		一人一人の特性を理解し、問題行動を『サイン』として受け止め、安心できるかかわりを積み重ねていく。その子の好き、得意を活かした保育を考えて実践していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員が自分の分掌や役割を意識し、感じたこと思ったことを伝え合い、協力して保育を進める	分掌ごとに話し合いの時間をつくり、業務を進めていくことができた。また、分掌がリードしながら各自が役割を意識して活動を進めることができたが、全職員への周知がむずかしい	B	B		分掌の内容を定期的に見直したり、気付きを大事にする。職員の得意を活かし、成功事例をみんなで喜んでいく。短時間のミーティング、振り返りの時間、忙しさの中でも伝え合える工夫など、周知の仕方を工夫していく
6 研　修	(1)研修体制の充実	日々の手だてを意識して、繰り返し実践する	日々の保育の中で、手だてを意識しながら子どもと一緒に遊び思いを読み取ったり、遊びの見取りを行うエピソード研修を行ったが、すぐに行動に移せず繰り返し実践ができていない部分がある。	B	B		園内研修で得た気付きを実践に繋げることを大事にして、遊びの見取りから環境づくり、かかわりの見直しを行い、それを実践することを日々行っていく
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境の充実	小さな気づきをすぐに改善し、安心安全な環境をつくる	ヒヤリハットや怪我の報告、改善点の話し合いを昼打ち合わせ会議の中で行い、会議で出た危険箇所の見直しや、職員間の周知共有、対策が行われた。さらに危険察知の意識、注意力を高められるように継続して取り組んでいきたい	B	B		ヒヤリハットの振り返りに加えて、「この場所のどこが危険か」の予測型安全点検を職員間で話し合い、未然に防ぐことを意識した改善に継続して取り組む
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもが育とうとしているところを保護者に伝える。また、保護者の思いを聴いていく	コドモンやクラスだよりを通じて園での子どもの様子や成長について保護者に伝えているが、直接話すことにももっと力を入れていきたい。早遅番にかかる保護者とのつながりや保護者が園に興味を持てるような発信の仕方を考えていきたい	B	A		保護者から「困りごと」だけでなく「嬉しかったこと」も聴いたり、ICTを活用した情報発信の中で「子どもが育とうとしている姿」を伝え、面談だけでなく、送迎時に直接話ができる場を大事にし、保護者が園の保育に興味と安心をもてるようにしていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の園や学校と交流活動を深める	小学校や近隣園の公開保育、公開授業、研修会に参加することで職員の交流を行った。近隣の私立園との年長児交流会「たいやきっこの会」を計画、実施し就学前の子ども同士の交流を行う活動をした	A	A		近隣園や小学校との連携を継続的に行い、近隣園の保育者同士で子どもの育ちの意見交換を行ったり、公開保育や交流活動を通して学びを共有し、子ども、職員の学びが深まる取り組みを行う
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	子どもが様々な人や自然、文化に関わる機会をもち、園だけではできない体験を積み重ねる	デイサービス“あいあいクラブ”に月1回参加して、お年寄りとの交流を楽しんだり、自治会館のコンサートに地域の方がたくさん参加してくれた。畑を通して地域の方とかかわりを持ったり、自治会館に長い間しまってあった神輿を年長児が押して練り歩き、地域の方が喜んでくれた	A	A		さらに地域との継続的なかかわりを大切にして、共に子どもを育てる存在になることを目指して地域の力をどう取り入れられるかを考えていきたい